

～医療生協健文会の職員のみなさま～

メロス通信 不定期便



Vol.06

2023年4月号

発行：地域福祉室


「新入職員のみなさま、 ご就職おめでとうございます」

メロスにも新たな仲間ができました！

二馬力になったメロスを宜しくお願い致します。

～「緒方弘征さん」よりご挨拶～


はじめまして、4月から「地域福祉室メロス」で働いています緒方弘征（おがたひろゆき）です。出身は、山口市秋穂です。22歳で、福岡県大牟田市にある民医連・親仁会でソーシャルワーカーとして活動してきました。50歳を機に、健文会にご縁をいただき、メロスに身を置きました。健文会の活動・文化に少しだけですが触れ、感じたことがあります。それは今までの僕の仕事の在り方です。仕事がいつしか、「慣れ」になってしまい、どうも違った方向・やっていけばいいになっていたことです。声を出せない・出しにくい人との関係で、僕自身を問われないことに慣れてしまっていました。問われないことは恐ろしいことだと、メロスに来て肌身で感じています。でも、まだ遅くはありません。もう一度、目の前の人は何を感じているのか、どうしたいのか、ここを自分のこととして考え、身につけていきます。この仕事と仲間、これから出会うべく人たちを通じて、自分の中のやさしさを発見し、大切にしていきます！どうぞよろしく願いいたします。「そばに共にいることで、辛さを分かってくれる人。がんばって生きてきたことを分かってくれる人。」そんな人になっていきます！



趣味：料理（三段）
作ることも、食べることも好きです。
好き嫌いはありません。
得意な料理は〇〇〇です。
毎日、お弁当を作っています。

座右の銘：息抜いて、生き抜く！

**楽しみ：レモンの木を買って庭に植えました。
実が成る2年後を楽しみにしています。**



（左から村上さん、Aさん、森山MSW、磯村さん）

職員のみなさま、

温かなご支援をありがとうございました。

～ **コロナ**で人生が狂い、遠方から**車ひとつ**で、

山口に帰郷した**Aさん**の物語です～

Aさんが新しい人生を歩み出すまで多くの職員の協力がありました。Aさんは感謝の言葉と共にメロス通信への掲載を快く承諾して頂きました。Aさんは店長として販売業に携わっていましたがコロナのせいで職を失い失意のどん底に落ち込みました。2年間自宅に引きこもり一念発起して宇部にやってきた時には極度の低栄養で身体はパンパンに膨らみ心不全を起こして宇部協立病院に入院しました。すぐに生活保護を申請しましたが、車の中には就職するためにもってきたスーツばかりで衣類は何もありません。すぐに社内メールでご協力をお願いし、病院、他事業所からたくさんの衣類と家財の提供がありました。これまでみなさまの善意で集まった家電や家具をあわせ最低限の生活ができるようになりました。写真は退院当日、旧歯科から家財を新居に届けることに協力してくれた宇部協立病院医事課の磯村さんと村上さん、そして笑顔のAさんです。入院中ストレスでタバコを吸いたくてたまらなかったAさんは、看護師さんに迷惑をかけたとはにかんで笑っていましたが、2つの病棟をまたいぎ「安らぎ」という大切な心のケアを受けました。職員のみなさん、これからもAさんの支援とメロスとの協働をお願い致します。

県連ソーシャルワーク委員会報告

医療費の滞納が生じる背景には多くの生活問題が隠れていること痛感する事例が2つ報告されました。ソーシャルワークとしてこの問題にかかわっていく必要を感じています。

また意思決定能力のない身寄りのない患者さんに対し医療保護入院や後見人等の対応をする際の倫理的問題が話題になりました。身寄りのない方の支援についてはメロスの検討課題でもあります。